

柳川郷土研究会
会誌「水郷」付録

すいきょう

瓦版

発行所 柳川郷土研究会

柳川市本城町 113-1

発行人 武松 豊

編集責任者 金子俊彦



土竜(もぐら)の囁き

三池史談会長の山城氏(中世史家)は、川平の伝承が、その正しき行
 なし。と述べて、少年期に七郎さん、澄んだ
 思ふ。私、蒼たる中に、滝が落ち、澄んだ
 つた。鬱蒼たる中に、滝が落ち、澄んだ
 滝壺があつた。びんでも、深さから
 して、人が飛んだ。それ以上、感はな
 い。と、思つた。びんでも、深さから
 伝承である。が、それ以上、感はな
 藩は、積極的に、新政府に協力した。柳川
 て。あつた。が、これには、疑問を感じ。筆
 者の故郷、山川には、旧土族が多い。小
 い。谷ごとに、一軒か二軒の武家屋敷があつ
 た。それらに、住人は、何れも薩摩方に心
 寄せた。それらに、住人は、何れも薩摩方に心
 土族が農民出身の兵隊から、殺傷されるの
 は、忍びがたい。身の気持ちは、強かつた。思
 う。姉の嫁家では、所有する刀の大半を薩
 摩方へ寄付して、合流する。その暗黙の合意
 が、南関へ来た。合流する。その暗黙の合意
 が、南関へ来た。合流する。その暗黙の合意
 明治初期に、生れた。人が、生れた。生れた。
 た。が、その話を聞かされた。新政府軍に
 西郷軍が、鎮圧された。あつた。新政府軍に
 協力した。と言わざるを得なかつた。思ふ。
 これが、真実とは、異なる。歴史として、後
 世に、伝えられる。異なる。歴史として、後
 くなつた。ドッコイ、今では、これ、聞かれな
 く、チキ、戦争の時、流行つた。掛け声は、ヤン、

(土竜)